



# なでしこ

【校訓】 かしく なかよく たくましく 【教育目標】 進んで学ぶ子 たがいに助け合う子 かいばいやりぬく子

令和6年5月31日  
さいたま市立谷田小学校  
TEL 882-2980  
FAX 811-1334  
<http://yada-e.saitama-city.ed.jp>  
【在籍児童数】 571名

## 『植物を育てるということ』

校長 村田 寿一

校庭の芝生の緑が濃さを増し、水がきらめく季節となりました。今、谷田小学校は各学年の子ども達が植えて育てている植物がいっぱいです。1年生はアサガオの種をまき、中庭の教室の前で次々に芽を出し、毎日水やりに張り切っています。同時に、その周りで活動しているダンゴムシやアリ、バッタなどの小さな虫に興味津々で、「バッタつかまえた!」とか、「カマキリがいたよ!」といった元気な声が、ここそこで飛びかっています。2年生はミニトマト、ピーマン、ナスの中から自分で選んだ夏野菜を育てていて、1年生とは反対に、野菜の近くで虫を見かけると、一生懸命追い払っています。中には、苗の周りにアルミホイルを敷くことで虫よけになるということを自分で調べて、実践している子もいました。3年生は理科で勉強するホウセンカを、4年生は同じく理科で学ぶヘチマやゴーヤを毎日観察しながらお世話をしています。そのような活動の中でも、一番心に残ったのが、ある6年生の言動です。6年生は理科の学習で、植物が根から吸った水をどのように体全体にいきわたらせるかということをお勉強しているところですが、それを調べるために、実験で植物の茎をカッターで切らなければならないのですが、実験が終わった後、ある児童が「この植物を持ち帰っていいですか」と聞いてきたのです。思わず、「持ち帰ってどうするの。」と聞き返してしまったのですが、その子は真剣な目をして、「まだ生きているから、家で植えて世話をすれば、もしかしたら、また根が出て育つかも知れないから。」と答えました。私はそれを聞き、心が洗われた気がしました。苗という小さいのちを大切に、優しく見守る子どもの姿が見られ、大人としていつの間にか失ってしまっていたことを思い出したからです。

今年度、本校は教育委員会の推進する「人権の花運動」実施校に選ばれました。2学期に栽培委員会の児童が中心となって、「人権の花」を植えることになっています。「人権の花」には、子ども達が日ごろ学び、大切にしている人権への思いを育てるという意味も込められています。その思いがさらに大きく、そして深く広がるようにお花の世話もしていく予定です。草花の生命の勢いを肌で感じながら、お世話を通して、私も子ども達とともに心を耕していこうと思います。

さて、先日5月の25、26、27の3日間、5年生が2泊3日で福島県にある会津高原での館岩自然の教室に行っていました。大自然の中で過ごすにはベストと言ってよい時期に、3日間天気にも恵まれて、予定していたプログラムをすべて行うことができました。キャンプファイヤーでは輪を作り、ダンスやレクで楽しみ、友達との絆を深めていました。さらに登山や川魚さばきなど、初めての体験に緊張している姿も見られましたが、3日間の活動を通して子ども達もたくましく成長したように感じます。私も、素直で明るく、優しい5年生の子ども達と最高の思い出を作ることができました。保護者のみなさまにおかれましては、事前の説明会をはじめ、お子様の健康管理や、様々な活動へのご理解、ご協力ありがとうございました。3日間の活動の様子を記録した写真を谷田小学校のホームページに掲載いたしましたので、お時間ある際にご覧いただくと幸いです。

